

# 赤とんぼと子どもたち

調査を通して変わる意識

赤とんぼの羽化数調査と、移動経路確認のためのマーキングには市内の4小学校（三室・野向・荒土・鹿谷）の児童たちが参加しました。参加した児童たちには、調査を通していろいろな変化がみられたようです。鹿谷小学校でお話を伺いました。



鹿谷小学校5年生による調査の様子

## 2008匹にマーキング

鹿谷小学校では、5年生16人全員が6月末から7月中旬にかけて、小学校付近の水田3枚で赤とんぼ類の羽化した後の抜け殻数調査と、羽化したばかりの翅に追跡調査用のマーキングをする作業を行いました。

羽化殻は287個見つけ、マーキングは208個体に施すことができました。

## 子どもたちの感想

- ・赤とんぼが大好きになった
- ・いっぱいマーキングできてよかった
- ・マーキングしたものが帰ってきてほしい
- ・田んぼによって羽化数が違うのが不思議
- ・子どもたちには、自然を見つめる目がしっかりと養われていると感じました。来年も調査したいという声もありました。



鹿谷小学校5年生の皆さん

## 子どもたちと一緒に感動！

鹿谷小学校  
平林 茂将 教諭



**身近な環境に興味**  
赤とんぼ類の調査を通じて、子どもたちが変わったなと感じることは、まず単に「赤とんぼ」と呼ばずにアキアカネやナツアカネなど種類でしっかり呼ぶようになり、分からない昆虫の名前は、ちゃんと図鑑で調べるようになりました。また、昆虫が苦手の女の子も興味を持つようになるなど、子どもたちは、より楽しく、より知的に身近な環境に興味を持つようになったと感じます。私自身

**子どもたちの気づき**  
この体験を通じて子どもたちは、山や川や田んぼも含め、それらが人間だけのものではなく、自然のものであるということ、そして、人間も自然と共に生きていくということに気づいてきて、さらに関心が高まっています。

## 「赤とんぼと共に生きるプロジェクト」

### 赤とんぼの舞う風景を未来へ

勝山市が進めている同プロジェクトに関する環境保全研究会が開催され、上田哲行教授の講演と、市内4小学校の児童による赤とんぼ調査の成果報告、前園泰徳さんによる赤とんぼ調査の内容説明と成果報告が行われました。

**日本の原風景を守る**  
全国で激減している赤とんぼが、まだ当たり前の風景として残る勝山市。この環境を残していくことで、他の多様な生物が生息できる可能性が広がっていく。そのためには何をすべきか、何ができるのかを子どもたちと、地域の人が一緒に考えていく「赤とんぼと共に生きるプロジェクト」が始まりました。

**残したい自然**  
児童たちは、小学校ごとに発表を行いました。赤とんぼの生態について、調査を通して初めて知ることばかりで驚いたことや、他の

昆虫にも関心が高まってきたことなどが発表され、「この自然を残していきたい」「とんぼの住みやすい環境について調べたい」といった環境保全意識の高まりが感じられました。



荒土小学校の発表



三室小学校の発表



野向小学校の発表



劇団ドラゴン・ファミリーによる「赤とんぼ」斉唱

さっそく始められること!

## アキアカネは 適度な水たまりが大好き

～赤とんぼの生態にあわせた優しい田んぼづくりを～

**秋** アキアカネは稲刈り後の水田にできる水たまりに産卵します。稲刈り後の9～11月に適度な水たまりができるよう水田に水を入れ、産卵しやすい環境を作りましょう。

水はたくさんでなく、水たまりができる程度で十分です。

**春** アキアカネの卵は春、水田に水が入ると孵化し、6月から7月にかけて飛び立ちます。水入れが遅いと6月の水切り時期に飛び立っていないアキアカネが増えてしまいます。

春は、できる限り早めに水入れを行いましょう。



アキアカネの産卵の様子